

第9回 佐世保市子ども・子育て会議 議事録（要約版）

日時：平成28年10月31日（月）19時～21時

場所：佐世保市役所本庁舎4階 全員協議会室

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
議事（１）「新させぼっ子未来プラン」の進捗状況について	
（今回の報告の位置づけについて） ・ 今回はあくまでも、5年計画のうちの初年度の実績を報告するものであり、計画を見直す必要の有無については、中間年度（平成29年度）が終わるに当たって議論する、という理解でよいのか？	・ その通り、今回確認して頂いているのは、初年度（平成27年度）の進捗状況であり、中間年に見直しを予定している。その中で、最終5ヶ年目の目標はこれで良いのか、議論して頂きたいと考える。
議事（２）子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について	
（養育支援訪問事業について） ・ H27年度実績が177人と、見込みより100人ほど少ない理由は？ （乳児家庭全戸訪問事業について） ・ 家庭訪問員には、どのような方が、何人ほど就いているのか？ ・ 養成講座とはどのような内容か？	・ ファミリーサポートセンターの広報に注力した結果、そちらの需要が増えたためと考える。ただ、養育支援、専門的な支援が必要な方は多く潜在すると考えており、丁寧に見極めをして、支援の対象者を把握して対応したい。 ・ 家庭訪問員は子育てサポーター養成講座を修了した方。子育てサポーターは健診会場や教室等に出向き、兄弟児の世話などの役割を有するが、サポーターとして1年以上の経験を積み、希望があれば家庭訪問員に就く。主管課（子ども保健課）からも素質ある方に声を掛け、家庭訪問員に就いて頂いており、現在、19名である。19名でほとんどの全戸訪問を実施するが、育児不安が強い方や保健師が訪問した方が良いケースでは、専門職が訪問する。 ・ 訪問員の研修について、子育てサポーター養成講座は実習も含めて6回受講する形であ

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
(ショートステイ・トワイライトステイ事業について) - 今年度実績予定は 145 人と、27 年の 2 倍強となっているが、これは実績を見込んだの数字か？ (ファミリーサポートセンター事業について) - 提供金額は 1 時間単価で計られるのか？また、いくらなのか？ - 事業内容がとても良いと思ったが、提供会員が依頼会員になったりと、立場が入れ替わることもあるのか、もう少し具体的に良いところや困ったことなどを聞きたい。	る。訪問員は、毎月何らかの研修を受講したり、同伴訪問を行ってお互いの訪問技術の評価をし合うなどして、シビアに研鑽を積んでいるため、スキルの高い訪問員に育っているものとする。 28 年度実績予定は 145 人ということで、27 年度の 70 人に対して 2 倍以上になっている。26 年度の実績が 145 人であり、27 年度に予算化する際には上半期実績が 26 年度と同様の状況だったため、28 年度も同様に 145 人程度を見込んだが、27 年度下半期、11 月以降の需要がほとんどなく、結果的には 70 人となってしまった。 - 本事業は、保護者の疾病や育児疲れで利用されるため、予算の考え方としては、最大限利用される状況をベースとしている。28 年度も 145 人分で予算化していたが、実際は 27 年度と同程度で推移している。年度末にならないと確実な見込みは立たないが、26 年度が 145 人と多かったことから、それをベースとして 28 年度実績も見込んでいる。 1 時間あたりの単価設定がされており、平日月曜日～金曜日の昼間、7 時～19 時までは 1 時間 700 円、早朝・夜間・土日祝では、1 時間 800 円の単価である。 - 依頼会員と提供会員があり、現状、サービスを受けたい側である依頼会員の登録は増える一方、提供する側である提供会員の登録はなかなか増えていない。両方登録はできるが、どうしても依頼会員が増加傾向にある。当然依頼側が増えると、サービスの提供件数自体も増えるが、実際に提供側が増えていない状況であるため、提供する側はきつくなっている状況とを感じる。今後、依頼会員に合わせ

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
- 母子手帳交付や 4 ヶ月健診の際に広報を行っている状況から、依頼会員が多くなっていると思っていた。提供会員を見つける手立てを、例えば子育てが一段落した方々が提供会員となるなどして、提供会員を増やす努力もして頂ければ、頼るばかりではなく自分自身も支援する側になることは、本事業が大変有意義になる上でも大事と思う。 (一時預かり事業について) - 幼稚園型の共働きでの一時預かりは、見込みと違ってなぜこれほど少なかったか？	て、提供会員も増やすよう努力する必要があると考える。 - H27 年度からの子ども・子育て支援新制度に伴い初めて導入されたが、この制度の内容の詳細が国から示されない中で、見込まざるを得なかったため。幼稚園からの聞き取りを基に、過去の実績から最大限見込んでいたが、実際は表に記載した通りの状況だった。 - 計画段階で 20 万人という数字となっているが、この計画の立て方については国から明確に示されており、平成 25 年にアンケートを取り、「夫婦が働いていて保育が必要という家庭で、且つ幼稚園に預けたい」という、幼児教育の希望が強い方をまず数字として出すとされていた。その上で、そのような方については、通常の幼児教育の時間では足りないため、預かり保育（一時預かり事業）が必要な人数を計算することとなっていた。その結果、20 万人という数字になった。ただ、実態では、例えばおじいちゃんおばあちゃんが近居されているようなケースも考えられ、そのようなケースでは必ずしも毎日使われないということが、計画値と実績値の差と考える。

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
(放課後児童クラブについて) ・ 指導員として新しい人が続々と就いており、長崎市では年間 5 回の新人研修が義務付けられている。しかし本市では今 3 回実施されているが、うち 1 回が放課後総合プランの関係と、障がい児研修が 2 回。新人研修については全くされていないので、新しい指導員が就いても、例えば、保育士でも学校の先生でもない学童では、認定研修が始まるが、子どもたちを生活面を含め全て見るような指導員であるため、市としても主体的に新人研修を実施して欲しい。量とともに資質向上に向けても取り組んで欲しい。	・ 量のみならず質も重要であり、調査しながら、必要な研修等について検討していきたい。
議事（３）教育・保育の量の見込（確保方策）に関する現状と今後の見通しについて	
(保護者希望による待機・空き待ちについて) ・ 「希望」の中身は？ (待機児童について) ・ 認可外保育施設の利用者に、待機児童が含まれていると考える。認可外しか利用できない方もいるが、多くは認可保育所に入れなかった子どもたちである。アンケートを実施するなどして、実態の把握に努め検討して頂きたい。 ・ 保育所に余裕はあるが、保育士を確保できない。意欲ある保育士はいるが、事務等の仕事量が膨大などの問題があり、厳しい労働環境にある。保護者の迎えも夕方遅くまで来ないため、結局開所時間いっぱい勤務せざるを得なくなっている。そうした事情から、保育士が志望されていないと思われる。 ・ 2号・3号認定児を主とする議論がされているが、幼稚園に関しては、1号認定児は、定員を超えて受け入れることはできない。1号・2号を区別することなく、市で何か方策を取ることはいできないか。	・ 自宅や職場に近いという希望や、施設の特徴・特色の希望など、様々なケースがある。保護者の希望にできるだけ合った施設を、見学の上で決めるよう案内している。 ・ 保育士の確保に関する検討も行っているところである。地域による格差があることもあり、施設確保と並行して取り組みを考えている状況である。 (注)冒頭にて、新規施設の増設なども視野に入れ、供給手段を検討している旨、事務局説明を行っている。 ・ 可能な範囲での対応を行いたいと考える。

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
議事（４）“子育てしやすい街 させぼ”を目指した取り組みについて	
（子育てアイデア実現化奨励金制度について） ・ 企業側としても、こういった子育てしやすくするアイデアを奨励する企業もあるのではないか。９件の採択と記載されているが、どのくらい申請があり、採択されなかったものがどういうものだったか？	・ 子育てしやすい雰囲気や意識を醸成していきたいというところで、基本的には市民の方、個人もしくはグループを対象に募集した。 ・ 応募状況については、応募は１０件で、採択したのは９件。採択されなかった１件については、佐世保市内のできるだけ広い方を対象に、子育て支援の輪が広がるようなアイデアを意図していたが、対象者がかなり限定されており、また、次年度以降に繋がるような仕組みでないと判断されたため。